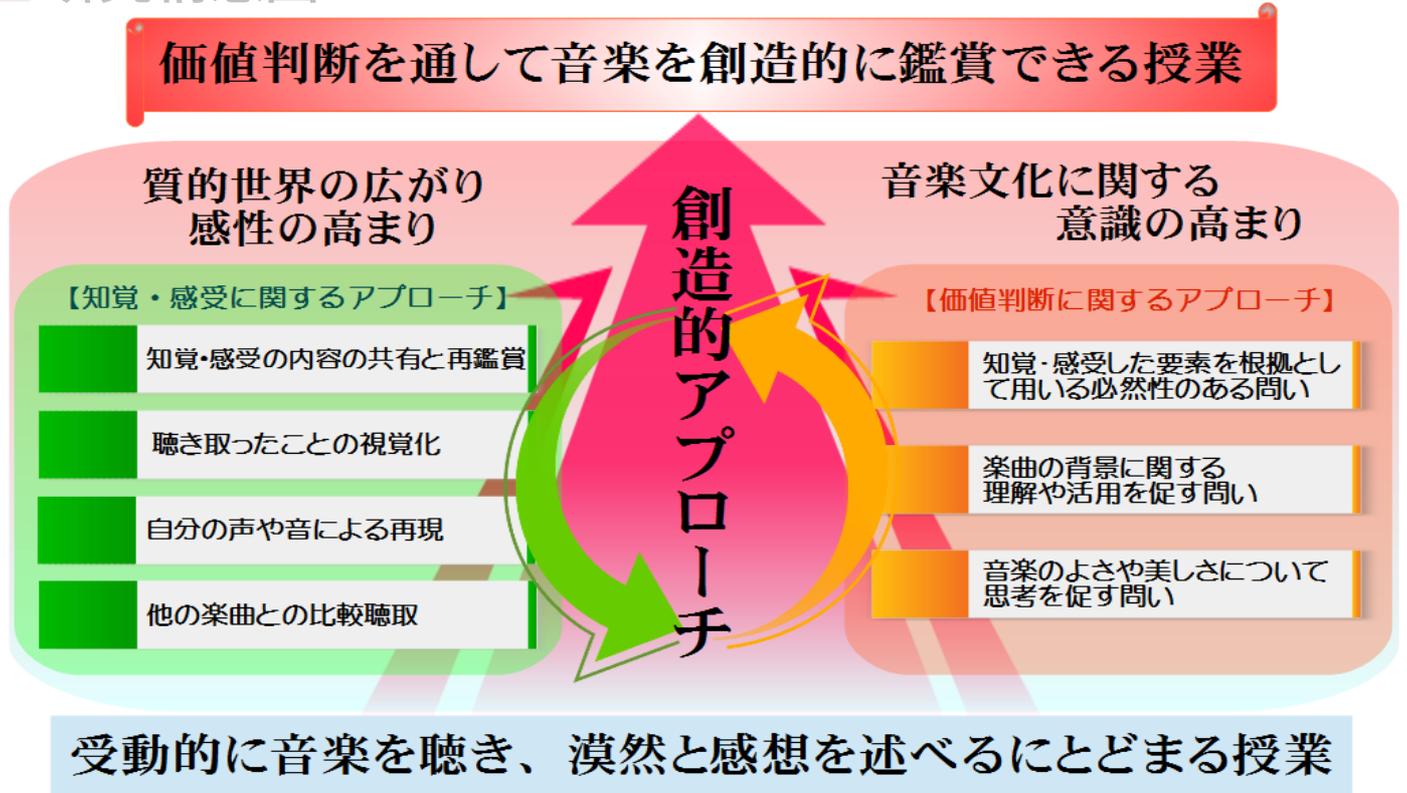


価値判断を通して音楽を創造的に鑑賞できる授業モデルの研究 —「創造的アプローチ」を手立てとして—

長期研修員 島田 聡

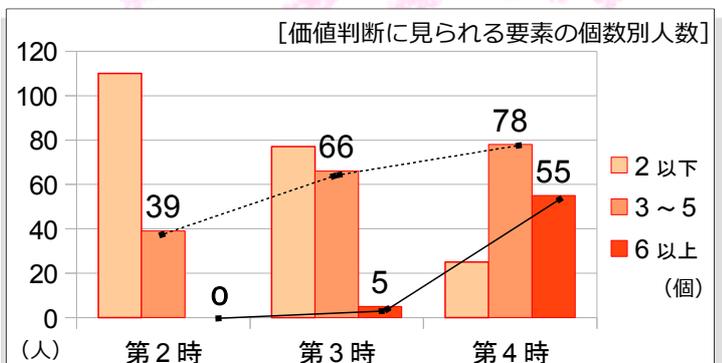
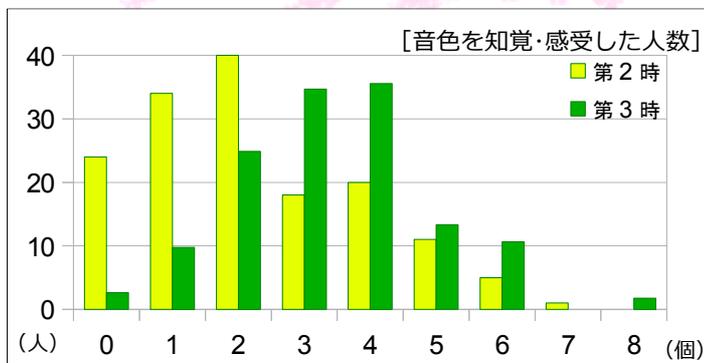
研究構想図



成果と課題

音楽を形づくっている要素の知覚・感受がより一層図られ、**音楽の質的世界が広がり、感性が高まった！**

知覚・感受したことと知識とを適切に結び付けた価値判断ができ、**音楽文化についての意識が高まった！**



知覚・感受した要素を基に、表現を工夫したり批評したりする機会を確保した**指導計画**や、価値判断へ向かう思考の流れをより円滑にする**ワークシート**等により、知覚・感受した要素と価値判断とをより結び付けやすくすることで、創造的な能力を育む学習を更に充実させることが求められる。

能と歌舞伎に共通する詞章を比較聴取し、音楽を形づくっている要素の知覚・感受を手掛かりにして、それぞれの音楽的な特徴と表現上の効果、楽曲の背景との関わりを理解し、よさや美しさを創造的に味わおう。



知覚・感受に関するアプローチ

国、地域、風土、人々の生活、文化や伝統 など

知覚・感受した要素

知識・理解

能の謡との比較聴取

高く明るい声
華やかで賑やかな雰囲気

江戸の町民文化
総合芸術としての歌舞伎 など

歌うことによる再現

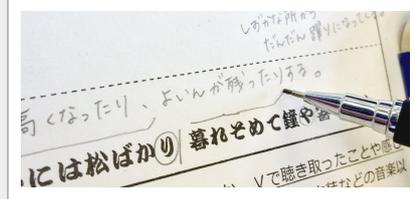


価値判断に関するアプローチ

線で旋律の動きを視覚化

知覚・感受した要素を
根拠として用いる
必然性のある
問い

歌舞伎『京鹿子娘道成寺』に能『道成寺』の謡を取り入れる際、作者はどんな工夫をしただろう？
工夫した理由も考えよう。



共有と再鑑賞

価値判断の 具体例

作者は、能の謡を取り入れる際、華やかで生き生きとした江戸の町民文化に合わせた表現にするため、速度を速くし、歌の声の音色を明るくして、謡ガカリ全体を華やかで賑やかな雰囲気にした。

提言

価値判断を通して音楽を創造的に鑑賞することは…

成熟した社会を
形成する力

